

一般講演

1) 平成16年度歯学部第1学年病院体験学習 — 学生による問題点の抽出とその対応 —

○鎌田 政善, 天野 義和, 菊井 徹哉, 佐々木重夫
佐藤 純, 竹内 操, 小林 康二, 渋澤 洋子
川合 宏仁, 三田 明, 梅村 幸生, 島田 敏尚
釜田 朗, 山崎 信也, 車田 文雄¹, 山崎 章²

(奥羽大・歯・附属病院病院体験学習担当,
口腔衛生¹, 口腔病態解析制御²)

低学年の早期に実際の臨床を見学または体験させる教育概念 (Early Exposure) は, 自覚の形成を促す上で極めて効果が高いことが報告されており, 医学部・歯学部の教育に導入されている。本学においても平成15年度より病院体験学習を第1学年の学生を対象に実施し, 学生のアンケート結果をまとめて日本歯科医学教育学会雑誌の第21巻1号に「奥羽大学歯学部第1学年における Early Exposure の効果」と題し報告してきた。そこで今回は, 平成16年度の歯学部第1学年の病院体験学習終了後に, KJ法を用いた病院体験学習の問題点の抽出ならびに二次元展開法での問題点への対応について, 学生がまとめた結果について報告した。

まず, 平成16年度の第1学年の学生を1グループ9~10名からなる10グループに編成した。病院体験学習が全て終了した翌週の12月22日(水)の4時限目の90分間でKJ法を用いて問題点の抽出とその関係図をSGDにより作成。次いで, 1月12日(水)の4時限目に二次元展開法による問題点とその対応策についてSGDにより作成。1月19日(水)の4時限目に各グループのプロダクトの発表を, 1グループ発表時間5分, 全体討議3分で行った。

第1学年の学生による病院体験学習の問題点の抽出とその対応策については, 多くの意見がでたが, 以下の4項目に大きくまとめることができた。

1. 学生自身の意識・感心の低さに対しては, 医療を学ぶ者としての自覚を持つこと, 定期的に歯科検診を受けること等があげられた。
2. 担当教員への要望に対しては, 各科ごとに

説明用プリントを配布すること, わかりやすい言葉で説明すること等があげられた。

3. システム上の問題点に対しては, 受身的な内容でなく学生が参加できる内容の拡充, 学生の希望する診療科に行けること等があげられた。

4. 患者さんへの配慮に対しては, 患者さんに挨拶をすること, 見学日時をあらかじめ患者さんに知らせること等があげられた。

これら学生の意見を参考として, 改善すべき点などこれからの病院体験学習だけでなく, Early Exposureの効果が上がるようなカリキュラムを考え, 6年一貫教育の礎にしていきたいと考えている。

2) 奥羽大学歯学部附属病院における BLS-AED講習会実施概要

○山崎 信也, 島村 和宏, 佐々木重夫, 鈴木 史彦
竹内 操, 金 秀樹, 川合 宏仁, 島田 敏尚
長谷川淳子, 国分美保子, 高橋 知子, 加藤由起子
川口 真弓, 田代 美和, 小林 勝彦, 齋藤 高弘
奥秋 晟

(奥羽大・歯・附属病院 BLS/ACLS委員会)

【緒言】一般人のAED(自動除細動器)の使用が認められ, 愛知万博や福島原発など, AEDを用いた心停止患者の救命例が続々と報告されている。このような状況で, 病院などではAEDを設置することがリスクマネジメントとして位置づけられるようになり, なおかつ, 一般人がAEDを使用できる状況で, 医療従事者がAEDの正しい使用方法が「分からない」は, 通用しない状況になってきている。本学附属病院でも本年4月にAEDを設置したことに伴い, 病院全職員対象にBLS-AED講習会を実施したので, その概要を報告する。

【概要】まず, BLS/ACLS委員会を設置し, 29名のインストラクターを選定した。インストラクターコンセンサス会議を2回行い, マニュアル作成により, インストラクションの統一化を図った。講習会は8月18日~9月29日までの平日17:30~18:30で, 1回の受講者6~9名に対しインストラクター3名とし, 合計29回実施した。インストラクターは学会認定の心肺蘇生コースを修了

した当病院の歯科医師18名、看護師9名、歯科衛生士2名で、それ以外の職員207名を対象とし、3班に分かれてBLSとAED使用方法について講義と実習を楽しく行った。院外でも心肺蘇生を行う可能性を考慮し、受講者全員にポケットマスク（人工呼吸を容易にする器具）を進呈し、携行を勧めた。受講者にアンケートを行った結果、92%から楽しかったという回答を得た。今後もこのような講習会を開催し、病院の安全、医療の安全に貢献したいと考えている。

【結語】院内BLS-AED講習を行い、全職員にBLSとAEDの流れを体験してもらった。職種を問わず、全職員が楽しい雰囲気講習会を行えるよう工夫した結果、92%から「楽しかった」との回答が得られた。また受講したいと思ってもらうことが重要と思われ、毎年の講習内容をステップアップさせていきたい。

3) Early exposure におけるミラーテクニックへの取り組み

○中埜 高, 佐々木重夫, 菊井 徹哉
佐藤 穂子, 今井 啓全, 森下 浩江
笹原 麻美¹, 田辺 弘毅², 天野 義和
(奥羽大・歯・歯科保存, 附属病院¹,

医療法人社団康心会大船ガーデンアソシエクリニック²)

【緒言】演者らは奥羽大学歯学部第1学年の附属病院体験学習の中で、将来歯科医師になるための自覚と認識を高めさせる目的でミラーテクニックの体験学習を行ったので報告する。

【方法】本学第1学年102名を平成17年4月22日～7月14日の間に20回に分け、総合歯科第1診療室医局において行った。学習内容は1. 体験学習前質問紙調査（プレアンケート：5設問）。2. 歯科診療におけるミラーテクニックの必要性に関する説明（術者の診療姿勢や患者の体位など）。3. 2人が1組となり、相手の差し出した鏡を見ながら自己の名前書き（ひらがな、漢字、ローマ字）、図形の線引き、迷路たどり（単純、複雑なもの）。4. 各自での迷路たどり（複雑なもの）。5. デンタルミラーを用いて口腔内模型の歯を探針で触れる練習（マネキン使用）。6. 体験学習後質問紙調査（ポストアンケート：8設問）とした。

【結果】出席率は89.2%（91名うち男性73名、女性18名、平均年齢20歳2ヵ月）であった。プレアンケートの結果では日常生活において鏡を「毎日みる」、鏡の特性として「左右が逆に写る」、鏡の材質は「ガラスでできている」の回答率が高く、歯科健診や歯科治療に鏡を「使用すると思う」や「歯科健診や歯科医院で鏡の使用を見た」などの回答率が高かった。ポストアンケートの結果では本体験学習は「楽しかった」が、鏡を使用しての名前書き、図形の線引きおよび迷路たどりは「逆に写るところ」が「難しく」、体験してみても「眼」や「首」が「疲れた」との回答率が高かった。また、歯科診療においてミラーテクニックは必要と「思う」、本格的なミラーテクニックを習得したいと「思う」および本体験学習を受けて歯科医師になるモチベーションが「あがった」との回答率が高かった。

【結論】質問紙調査の結果から本学歯学部第1学年においてデンタルミラーは歯科健診や歯科治療に使用されているなど、その認知度は高いことがうかがえた。鏡を用いた体験学習は日常の使い方と異なるので「難しかった」、「疲れた」などの回答が多かったが、全ての者が「楽しかった」と回答し、将来、歯科医師になるモチベーションが「あがった」と回答した者も多く、本体験学習の目的は達成されたと思われた。しかし、モチベーションが「あがらなかった」と回答した者もあり、より臨床の場に近い設定として、マネキンを使用するものは実際の治療椅子で行うなど、さらに充実した内容の検討が必要であると思われた。

4) 口唇・口蓋裂治療における太田綜合病院附属太田熱海病院との連携

○黒田 栄子, 大植 一樹¹, 藤井 亮司², 小川 智子³
三澤 敬典⁴, 本田エミ子⁵, 渡辺 文裕⁶, 大河原順子⁷
国分 敦子⁸, 阿部真由美⁹, 塚原 恵子⁹, 廣瀬 将邦⁹
松山 仁昭, 福井 和徳, 氷室 利彦
(奥羽大・歯・成長発育歯, 顎顔面口腔矯正学¹,
太田熱海病院・歯科², 形成外科³, 耳鼻咽喉科⁴,
言語療法科⁵, 臨床心理室⁶, 医療社会福祉部⁷,
栄養部⁸, 看護部⁹)

太田熱海病院における昭和大学歯科病院矯正歯